

中馬一郎先生を偲んで

大阪大学名誉教授
志賀 健

日本生理学会特別会員・大阪大学医学部第一生理の名誉教授中馬一郎先生は去る平成23年3月4日肺炎にて逝去されました。満86才寸前でした。中馬先生は大正14年生れで、戦中に旧制尼崎中学・松山高校を飛び級と短縮で終えられ、阪大医学部を昭和22年10月に22才半で卒業されました。引き続き医師実地修練の後、学生時代から出入りされていた故久保秀雄教授の第一生理学教室に、大学院第1期特別研究生として入られました。昭和25年奈良県立医専助教授・同27年奈良医科大学生理学助教授、続いて昭和35年1月奈良医大に新設の第二生理学講座教授に昇任されました。時に35才でした。昭和41年に大阪大学医学部第一生理学講座教授として戻られ、生理学の教育・研究だけでなく、学外では日本生理学会や環境学会の諸業務を引き受けられ、学内では医学部長を勤められました。なお昭和63年停年退官の後にも藍野学園短期大学学長、次いで福田学園リハビリテーション専門学校校長として医療人養成に関係されました。

中馬先生のご業績はおよそ三つの範疇に分けられます。第一に研究・教育面、第二に学問領域を越えた協同作業、第三に教育機関の管理運営、それぞれに優れた能力を発揮されました。

第一に研究業績です。先生は学生時代から故久保教授のもとで研究を開始され、その折のヘモグロビン研究が一生のテーマとなりました。特に昭和40年アメリカ・コロンビア大学留学中にご自分でおやりになったご研究、これは四量体ヘモグロビンを壊さないで α と β 鎖に分離したお仕事で今なお高く評価されています。引き続き阪大では教室員を率いてこの蛋白質が一個だけで働く時



と四個まとめて働く時との差異とそのメカニズムの探求という方向で研究が進みました。例えば、胎児ヘモグロビンの酸素親和性が母親のヘモグロビンの酸素親和性より高いのは、ヘモグロビン固有の性質ではなくて、2,3-DPGとの相互作用の違いによるものであることを証明されました。つまりこの蛋白質は集まった時の方が我々にとって都合良く働くのはなぜかという事の追求を続けられました。これらの研究成果は多くの国際会議、シンポジウムで発表されました。

教育に関しては、先生の講義は用意周到で前もってメモを用意され、プリントを作り、理路整然たる講義をされました。阪大帰任以前にドーズ著「生物物理化学—基礎と演習—」を翻訳され好評に版を重ねたほか、生理学の教科書、環境科学の総説解説書などを適切な時期に出版されました。

第二のご業績としては環境科学研究があります。大気汚染物質の1つである窒素酸化物がヘモグロビンの働きをどの程度悪くするか、という特別研究のテーマが皮切りでした。環境問題は汚染物質の人体への影響だけでなく汚染物質の処理法から発生防止まで、または住居・建物・都市計画などなど、医学だけでなく学際的な協同作業が必須です。中馬先生は日本の環境科学会の立ち上げに参画され、その幅広い見解と調整能力を見込まれて、社団法人化後の環境科学会の初代会長を務められました。このほか大阪府公害対策審議会委員を十年ほど引き受けられ、退官後の平成3年から6年までの間はその委員長を務められました。その後も大阪府環境審議会委員を四年間務められ、平成10年には環境庁長官から地域環境保全功労賞を受けられました。このように生理学の枠を越えて社会的に幅広い活動をされました。

日本生理学会の方も長らく常任幹事を務め、生理学会の雑誌編集委員会・用語委員会・会則委員会などに加われ、昭和59年から三年間は教育委員会委員長を務められました。さらに昭和58年第60回日本生理学会の当番幹事を岩間・河村・中山先生と共に務められました。

第三の重要なお仕事は大学の管理運営であります。昭和48年から二年間、大阪大学医学部長を務められた事は周知の事ですが、実はその前段階に、大学紛争時の先生の働きがありました。昭和42年当時、阪大医学部でも多少の出来事がありましたが、山村学部長の時、中馬先生は教授会の中の覆面委員会の委員長に指名されて、医学部内の世代間抗争に直面されました。後に医学部長に推されたのは、この時の対応が教授会に評価されたものと考えられます。中馬学部長の重要な業績は、全国に先駆けて、いわゆる学士入学を制度化した事だと思われます。これは、a.学際的な環境科学研究を通じて、医学部にも幅広く人材を取り込む必要性を痛感された事、およびb.学生増募に際して教養部の負担最少という点も考慮された事でしょう。現在、学士入学学生の内から阪大医学部教授となった方々がすでに何人かおります。

末筆になりましたが、以上の業績面だけでなく、

中馬先生が同級生クラス会や阪大水泳部OB会をよく世話されておられた事を、旧教室員たちは告别式の弔辞で始めておうかがいして一様に驚いたものでした。この種の面倒な雑件をご自分で抱えておやりになっていた、とは想像も出来なかったものでした。論理的で一見クールなように見えながら、実は我々個々の事もよく見て、良い方向に持って行くようにして頂いた事が思い出されます。

最後に謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

中馬一郎先生	略歴
1925年3月	尼崎市に生る
1943年9月	松山高等学校理科乙類卒業
1943年10月	大阪帝国大学医学部入学
1947年9月	大阪大学医学部卒業
1948年9月	医師実地修練終了(医師免許取得)
1948年10月	大阪大学大学院第1期特別研究生入学
1950年8月	奈良県立医学専門学校助教授(生理学講座)
1952年10月	奈良県立医科大学助教授
1960年1月	奈良県立医科大学教授(第2生理学講座)
1965年4月	米国コロンビア大学医学部留学(1年1カ月)
1966年7月	大阪大学教授(医学部第1生理学講座)
1968年5月	人体基礎生理学研究所設立準備委員会委員
1973年4月	大阪大学医学部長(1975年2月まで)
1975年4月	日本生理学会常任幹事(1990年4月まで)
1977年6月	岡崎生理学研究所評議員(1981まで)、運営協議員(1985まで)
1983年4月	第60回日本生理学会大会当番幹事
1983年4月	第21回日本医学会総会学術委員長
1988年3月	停年退官、大阪大学名誉教授

1989年8月 大阪府公害対策審議会委員，同委員長（1991～94年）
1991年4月 藍野学園短期大学学長（1997年3月まで）
1998年6月 地域環境保全功劳賞（環境庁長官）

2000年4月 福田学園リハビリテーション専門学校校長（2004年3月まで）
2002年11月 勲2等瑞宝章（総務省）
2011年3月4日 逝去